

## 2022年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

### 1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	いまはし ひろし					
教員氏名	今 橋 裕		職 位	准教授	学 位	博士（学術）
アルファベット表記	IMAHASHI HIROSHI					
専門分野		技術経営論、イノベーション論				
研究課題	テーマ	日本製造業における B to B 率及び研究開発多角化と収益性の関連性分析				
	概要	日本の製造業全業種について、経済産業省の産業連関表など公的データから B to B 率という新たな指標を用いて、スマイルカーブ化の検証及び研究開発多角化の度合いと収益性との分析を実施している。				
本年度 研究業績	研究費	総額： 287,100 円 内訳：個人研究費 220,000 円 / 科学研究費 円 その他 みらい授業研究費（今橋・田中共同）67,100 円				
	研究テーマ	日米製造業の収益性の検証。健康経営企業への訪問プロジェクトへの参加。国際ビジネスコースにおける貿易実務のカリキュラム検討。				
	経過と到達点	日米製造業の収益性の検証については、共同研究者と共に実施中である。健康経営企業への訪問プロジェクトに来年度からゼミ生を参加させるため、今年度は教員が参加して視察を実施した。貿易実務のカリキュラム検討は、検定を受験したうえで、難易度やカリキュラムへの盛り込みを検討する。				

#### （1） 学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文					
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等					

⑦学会での 口頭発表、討 論者(ディス カッサント)	製造企業の収益性 分析 -B to B率 及び健康経営での 考察-	2022年9 月	単著	京都経済短期大学 経営・情報学会研究 報告会	日本の製造業全業種について、 B to B率という新たな指標を 用いて、バリューチェーンと収 益性との分析と、健康経営訪問 プロジェクトについて紹介し た。
	コロナ禍をふまえ た日本製造企業の 研究開発投資及び 設備投資と収益性 の定量分析	2023年3 月11日	共著	日本 MOT 学会 第14回年次研究発 表会(2022年度)	日本製造企業の研究開発投資 及び設備投資と収益性につい て定量分析を行い、コロナ禍前 後の収益性の検証結果につい て、ファーストオーサーとして 口頭発表を実施した。
	アメリカ企業の研 究開発投資及び設 備投資と収益性の 定量分析	2023年3 月11日	共著	日本 MOT 学会 第14回年次研究発 表会(2022年度)	アメリカ企業の研究開発投資 及び設備投資と収益性につい て定量分析を行い、収益性の検 証結果について、共同研究者と して口頭発表に同席した。 なお、本発表は「ベストペー パーアワード銀賞」を受賞した。

## (2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・ 共訳書	『持続可能な社会に 向けて』	2023年3 月	晃洋書房	京都経済短期大学 30周年記念と して、教員全員で持続可能な社会に 向け手をテーマとして、著書を作成 して出版した。
⑨単著書・ 単訳書				

## (3) 外部研究資金獲得(競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究				
⑫共同研究 (分担研究)				
⑬科学研究 助成事業(日 本学術振興 会)申請				

## 2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	イノベーション論、経営学総論	生産管理論、地域企業論、観光概論
	演習	基礎ゼミナール、ゼミナールⅡ（加藤悟ゼミ）、ゼミナール特別活動	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅢ（加藤悟ゼミ）、ゼミナール特別活動
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目 レポート課題を充実させることで、学生にとって身の回りのことと勉強を結び付けて考えてもらうように工夫をした。		
	◆ 演習科目 ゼミナール活動については、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法など、アカデミックライティングの演習・講義を重点的に行った。 また、講義時間の他に適宜、就職活動や編入学活動における相談事項に対応し、履歴書・志望理由書の添削やアドバイス活動、面接練習の実施など、学生の将来への不安の取り除きや、各種の自己肯定感を持ってもらうために学生に寄り添ってサポートを行った。		
	実習科目		
	◆ その他（教科書・教材等の作成を含む。）		

## (1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	

## 3. 社会・学会活動（本年度のみ）

## (1) 公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	大阪大学大学院 工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻 招へい教員

## (2) 学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

## (3) 講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦講演者・登壇者・学会座長	ファミリービジネスのイノベーション「ブランド戦略」について講演を実施。 京都先端科学大学経営学部講義「チャレンジショップB」2022年11月14日 ゲスト スピーカー（講義）

## 4. 特記事項（本年度のみ）

<p>・「9th INTERNATIONAL SCIENTIFIC CONFERENCE NEW TRENDS IN MANAGEMENT AND PRODUCTION ENGINEERING - REGIONAL, CROSS-BORDER AND GLOBAL PERSPECTIVES Brenna, 9th - 10th June 2022 WSB University, Dąbrowa Górnicza, Faculty of Applied Sciences (Poland)」にオンライン参加し、Plenary session(part 1)及び Parallel Sessions に参加、拝聴した。</p> <p>・産官学連携健康経営企業への訪問プロジェクト（一般財団法人社会的健康戦略研究所・健康経営新井研究室主催）にて、8月22日に株式会社愛知銀行（2022健康経営銘柄）とブラザー工業（2020健康経営銘柄）を訪問した際に同行し、視察を実施した。</p> <p>また、12月17日開催の「2022 &lt;産官学連携&gt;健康経営訪問プロジェクト&amp;大学生認知度報告会（会場：カゴメ水天宮ビル（20名）&amp;ZOOM（100名）、共催：社会的健康戦略研究所、新井研究室）」について、会場で参加、拝聴した。</p> <p>・大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻招へい教員（2019年5月～継続中）として、10月17日に上西研究室のゼミナール活動に参加し、ゼミ所属の大学院生の研究に関して議論に参加し、研究についてアドバイスを実施した。</p>
---